

私は、福島県楡葉町出身の三十二歳。二〇〇八年から震災のあった一年三月十一日まで約三年間、原子力発電所(主に福島第一原発)の業務に従事していました。震災後三年間の充電期間を経て一四年四月から、いわきおてんとSUN企業組合に入社。現在は旧警戒区域を含めたスタディーツアーの担当をしています。

いわきおてんと  
SUN企業組合  
新妻英明さん



## 東北復興日記

113

# 楡葉の今日と肌で感じて

りを共有していただくことを目的としています。

楡葉町を案内する語り部 兼ガイドをしています。

私は自分自身が楡葉町からの避難者ということ

あの日から動きが止まっている旧警戒区域で

から、自分が体験した震災時や避難時の状況を伝え、原発二十キロ圏内にある旧警戒区域の富岡町、

も、状況が変化しています。楡葉町は、来春に帰町宣言をする予定になっています。しかし、除染

の処分地もまだ確定しておらず、自宅のすぐ近くに仮置き場があり、除染後の土が詰められたフレコンバッグで埋め尽くされています。そういった現状で、「安全です、除染が終わったので帰ってください」と宣言される

市民意識の高さを感じました。これからの未来創りには国境を超えたつながりが必要だと思いましたが、この体験を通して、自分の進む方向が定まったとある種の覚悟ができました。

ことには抵抗感がありません。まだ何も進んでないと感じています。それは、実際にその場に立って初めてわかることだと思えます。現地に来て、自身の目と肌で感じていただきたいと思っています。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。



このガイド役がご縁で、元原発作業員として

韓国を訪問し、体験を話す機会を頂きました。事故前の原発での作業内容を説明したほか、現地の発電所作業員との交流などを行いました。韓国での反応はダイレクトで、